氏名（本籍）	GOLDSCHMIDT REBECCA MARIA（アメリカ合衆国） （ごーるどしゅみっと れべっか まりあ）
学位の種類	博士（芸術）
学位記番号	甲第 165 号
学位授与年月日	2026 年 3 月 23 日
学位授与の要件	広島市立大学大学院学則第 36 条第 2 項及び広島市立大学学位規程第 3 条第 2 項の規定による
学位論文題目	絡み合う島々： 太平洋の葛
論文審査委員	主　査　　准教授　　古堅　太郎 委　員　　教授　　野田　睦美 委　員　　准教授　　石谷　治寛 委　員　　教授　　湯浅　正恵（国際学研究科）

論文内容の要旨

『絡み合う島々： アジア太平洋の葛』は、日本の広島、フィリピンのマウンテン州カバヤン、そしてハワイ島におけるクズの歴史的、生態学的、文化的な意義を探求する。アジア全域において、食料、繊維、薬として何世紀にもわたる伝統を持つにもかかわらず、この植物は、20 世紀のアメリカ南部におけるプランテーション後の農業プロジェクトでの過剰利用をきっかけに、世界最悪の「侵略的外来種」の一つとして非難されてきた。私は、クズを操作しようとする試みがあるにもかかわらず、その家畜化への抵抗力は、新自由主義的搾取、人種化された資本主義、軍国主義、そして核植民地主義や帝国主義的支配の論理に対する抵抗の重要なメタファーを提供すると論じます。.

私の芸術に基づく研究は、「人間以上の存在」であるクズとの関わりを探求し、人間と自然の二元論という誤った概念を修復する方法としています。クズの蔓から繊維を採取する古来の技法を学ぶことで、私は徐々に失われつつある靭皮繊維生産の身体化された知識を取り戻すことに取り組んだ。織物、マルチメディア・インスタレーション、アナログ写真を通じて、各現場と、伝統文化、移住、植民地化、軍事占領というそれらの共有された歴史とのつながりを描き出している。.

エコロジーからフェミニスト理論、核文学、先住民族のアナキズム、ユダヤ人ディアスポラの「ドイカイト」、イロカノ語の「ナサリメット」（機転）に至るまで、幅広い哲学的思考を援用し、私はクズが私たちに、新たな種類の完全性と多種の意識を達成するよう挑んでいると論じる。これには、「侵略種」や大量殺人者を含め、宇宙の網の目の中に私たちが本質的に絡み合っていることを認識することが含まれます。.

この研究は、私がガザで世界初のテクノジェノサイドを目の当たりにした際に制作されたものであり、日本におけるパレスチナ連帯運動での活動家としての私の活動や、広島市のいわゆる「平和文化」に対する私の異議申し立てについて論じています。本研究の重要な貢献としては、フィリピンにおける在来植物としてのクズに関する研究、そして「被爆者」の概念を人間

を超えて、原爆の影に覆われた山腹の深部に根を張るクズを含む「人間以上の存在」にまで拡張すべきという提言が挙げられる。

論文審査の結果の要旨

アジア原産の葛は、欧米では侵略的外来種として駆除される一方で、日本やフィリピンでは伝統的な織物の素材、食材、薬、儀式などに利用されてきた。申請者は、葛の多義的な特徴に注目し、葛布（くずふ）の制作を中心に研究を行ってきた。申請者が自らの手で葛を刈り取り、発酵させ、葛苧（くずお）に加工し、葛布を織る行為は、破壊された「植物と人間の関係」を時間をかけて修復する作業であり、ディアスポラの経験を持つ作者が、核後の世界で土地との関係を築き直す行為でもある。それは、追放されたドイツ系ユダヤ人であり、初期イスラエル入植者である父と、フィリピンから米国へ移住したイロカノ・パンガシナン人の母という複雑なアイデンティティを持つ申請者が、「亡命」や「追放」という概念に挑戦し、土地と結びつくことで、帰属意識の概念を作り変える行為でもある。ガザの虐殺への抗議活動に深く関わってきた申請者は、広島での沈黙に対する抑圧とジェノサイドへの無関心の関係を指摘している。また、旺盛な繁茂力から有害とされ、「資源」として搾取されることのない葛に「relentless（屈しない）」という態度を見出し、葛と関わることが支配や抑圧に抵抗する実践であると捉えている。論文並びに作品は、荒削りではあるが、申請者のアイデンティティを重ね、軍事化・移民・抵抗・伝統・交流の絡まり合いを重層的に表現した点は高く評価され、合格とする。